理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2021年3月期 決算説明会資料

2021年6月4日

1. 青島福生食品に関する経緯と改善措置の概要

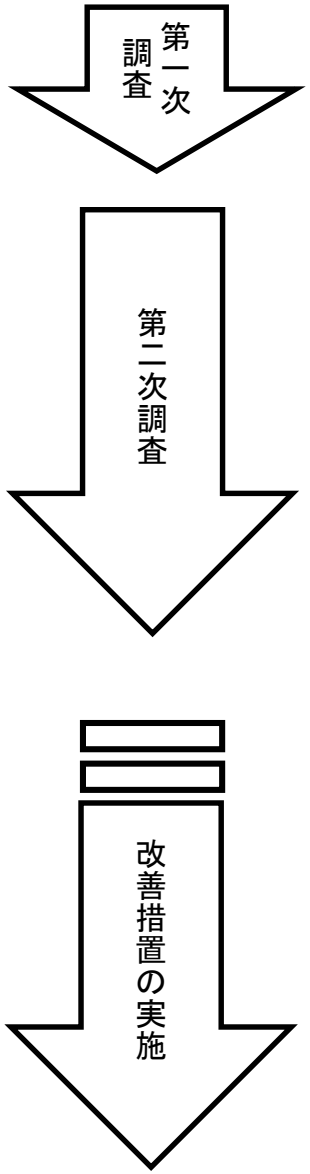
2. 2021年3月期業績

3. 2022年3月期業績予想

青島福生食品に関する経緯

理研ビタミン株式会社

2020	7月27日	エビの加工販売の取引について特別調査委員会を設置
	9月23日	特別調査委員会の調査報告書を受領
	9月30日	過年度決算訂正、第1四半期報告書の提出期限延長の承認、対応策発表
	10月1日	青島福生食品の棚卸資産の評価に関する疑義が発生
	10月7日	再度特別調査委員会を設置
	10月15日	第１四半期報告書の提出ができない見込みとなり、監理銘柄（確認中）に指定
	10月28日	過年度決算訂正、第1四半期報告書提出
	10月29日	監理銘柄（確認中）の指定解除、第84期定時株主総会
	11月13日	特別調査委員会の第二次調査報告書を受領
	11月16日	第2四半期決算発表、四半期報告書提出
2021	1月8日	東京証券取引所より改善報告書の提出請求
	1月25日	改善報告書の提出・公表
	2月15日	第3四半期報告書提出（監査法人による四半期レビューの結論改善）
	5月14日	2021年3月期決算発表
	6月22日	（予定）株主総会、有価証券報告書提出
	8月上旬	（予定）改善状況報告書の提出・公表



現在取り組んでいる改善措置の概要

理研ビタミン株式会社

信頼回復に向けた各種取り組みを継続

原因（当社）
トップマネジメントの長期直接関与
取締役会の監督機能不足
脆弱なグループ・ガバナンス
監査機能の不足

原因（青島福生食品）
総経理の長期マネジメント
内部統制の不備

経営責任の明確化
- 代表取締役会長・常務取締役の辞任
- 代表取締役の異動および役員報酬（監査等委員含む）の減額

取締役会の機構改革
- サクセッションプラン（後継者育成計画）の強化・推進　2021年4月に人事部を総務部から独立
- 指名委員会・報酬委員会のあり方の再検討
- 企業経営の経験豊富な外部人材の取締役選任（4/26適時開示「取締役の異動に関するお知らせ」）

経営幹部の職責に対する意識改革
- 経営幹部の定期的な研修の実施

子会社に対する管理強化・コンプライアンス教育の強化
- 関連事業統括室を2021年1月に新設、各子会社経営者・経営幹部・従業員との対話を強化
- コンプライアンス教育の充実
- 内部通報制度の拡充（2021年2月実施）

監査等委員会による監査機能の強化・内部監査体制の強化
- 監査等委員会と監査部との連携強化
- 国内外グループ会社への往査頻度の見直し
- 監査等委員会による取締役会へのフィードバックの実施
- 監査部の増員および内部監査人としての監査スキルの向上

青島福生食品の内部統制の不備の改善
- 経営幹部の刷新とコミュニケーション強化
- 当社社員副総経理によるモニタリング
- 定例会議の設置
- 在庫管理体制の強化およびその他の業務の見直し
- 従業員の意識改革

他の財務数値への影響の調査（件外調査）は完了

前期第3四半期で限定付結論に
改善したが、引き続き取り組む

1. 青島福生食品に関する経緯と改善措置の概要

2. 2021年3月期業績

3. 2022年3月期業績予想

2021年3月期業績

理研ビタミン株式会社

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を幅広く受け、減収
青島福生食品の棚卸資産評価損、特別損失の計上により赤字

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	前期比		2/15業績予想との比較	
	通期	通期	増減額	増減率	予想	差額
売上高	82,974	**77,722**	▲5,251	▲6.3%	78,000	▲277
営業利益	5,307	**1,367**	▲3,939	▲74.2%	1,100	267
経常利益	5,045	**1,652**	▲3,392	▲67.2%	1,000	652
親会社株主に帰属する当期純利益	▲8,933	**▲1,618**	+7,315	-	▲1,800	181

青島福生食品　21/3期実績への主な影響

エビの加工販売の取引(第1次調査)	売上高影響額 **▲1,657**	特別損失計上額 **▲1,596**
棚卸資産の評価(第2次調査)	営業利益影響額 **▲710**	
輸入冷凍水産品の評価(コロナ影響)	営業利益影響額 **▲2,845**	

中期経営計画の総括

理研ビタミン株式会社

前中期経営計画（2019年3月期～2021年3月期）は全ての目標値が未達で終了

テーマ

- 国内事業：収益基盤のさらなる強化
- 海外事業：構造基盤の強化による成長エンジンの加速化
- 独自の技術力・開発力に磨きをかけ、新領域に挑戦
- ＣＳＲ経営の推進

次期中計は1年延期

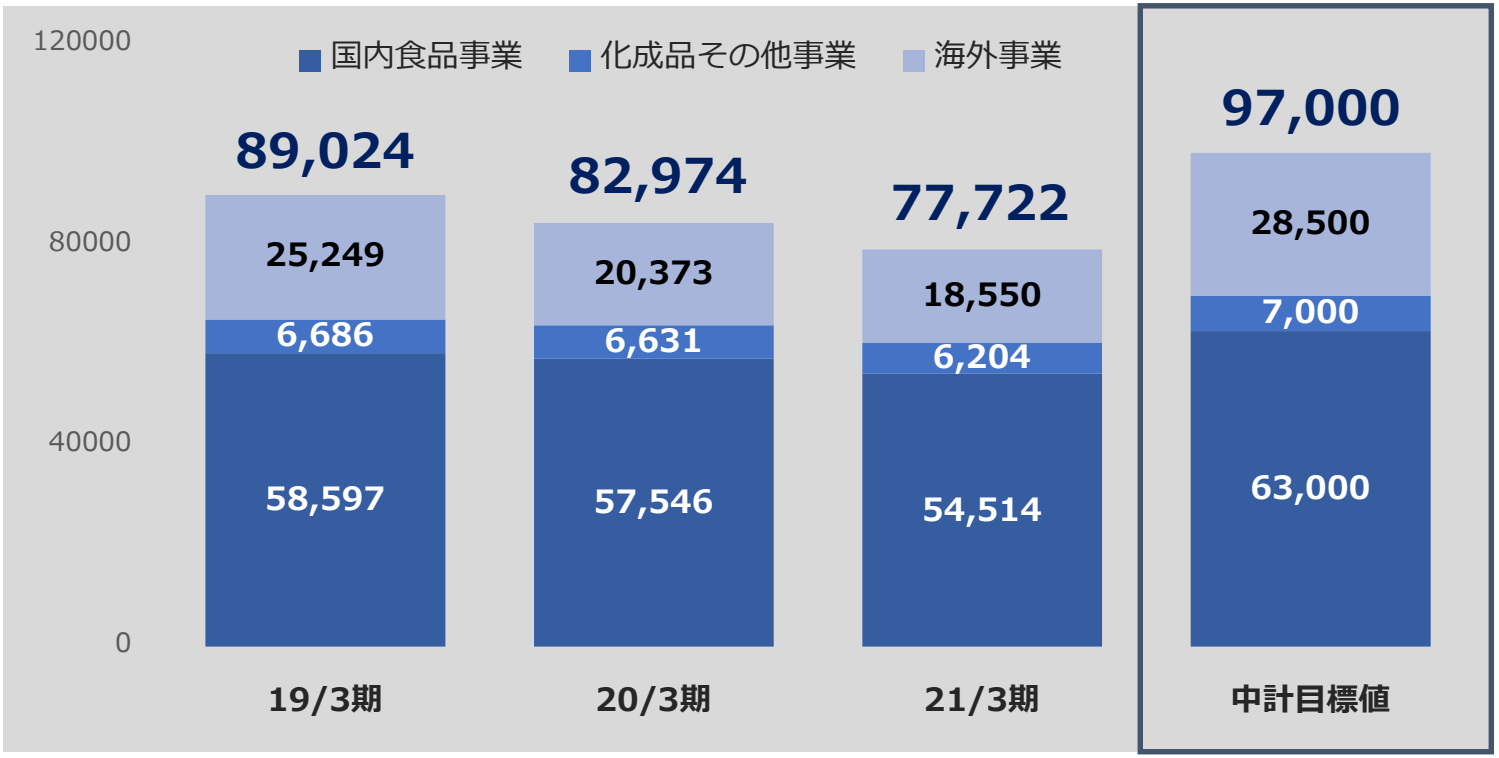
長期戦略を練り上げる期間とする

中計目標値と結果

	中計 当初目標	21/3月期 実績
売上高	97,000	**77,722**
営業利益	8,000	**1,367**
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,400	**▲1,618**
ＲＯＥ	8%	**▲3.5%**

セグメント別売上推移

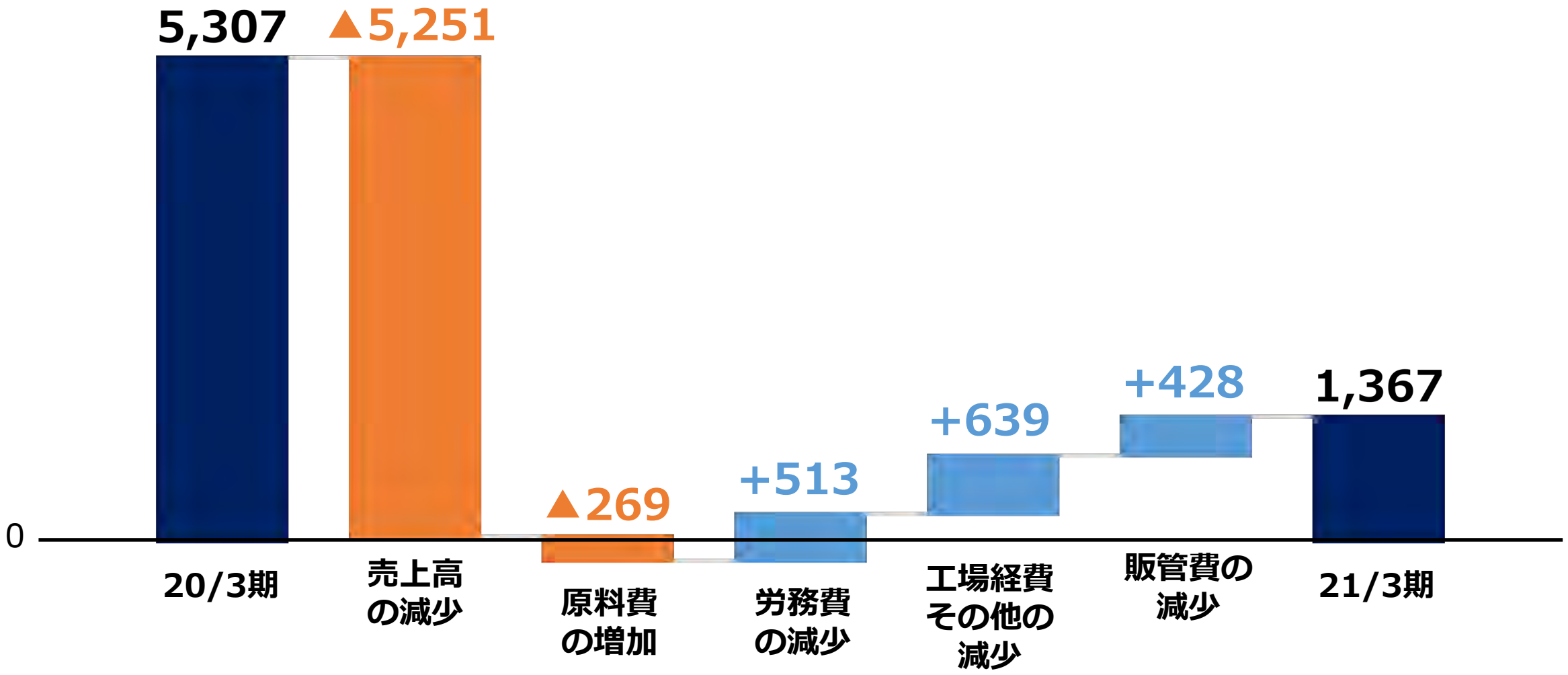
単位：百万円



営業利益の増減要因

理研ビタミン株式会社

- 原料費は青島福生食品の棚卸資産評価損の計上が大きく影響
- 工場経費はエネルギー費が減少、販管費は人件費は増加、販促費と広告宣伝費が減少



セグメント別実績

理研ビタミン株式会社

家庭用食品は好調に推移も、全セグメントで減収減益

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2020年3月期	2021年3月期	前期比		2020年3月期	2021年3月期	前期比	
	通期	通期	増減	増減率	通期	通期	増減	増減率
国内食品事業	57,546	**54,514**	▲3,031	▲5.3%	5,388	**4,677**	▲710	▲13.2%
家庭用食品	13,371	**14,009**	+638	+4.8%				
業務用食品	21,020	**18,587**	▲2,432	▲11.6%				
加工食品用原料等	23,154	**21,916**	▲1,237	▲5.3%				
国内化成品その他事業	6,631	**6,204**	▲427	▲6.4%	670	**541**	▲129	▲19.3%
海外事業	20,373	**18,550**	▲1,823	▲8.9%	▲292	**▲3,303**	▲3,010	-
海外改良剤	15,521	**14,631**	▲890	▲5.7%	850	**495**	▲354	▲41.7%
青島福生食品	4,852	**3,919**	▲932	▲19.2%	▲1,143	**▲3,799**	▲2,655	-

セグメント別ポイント（1/2）

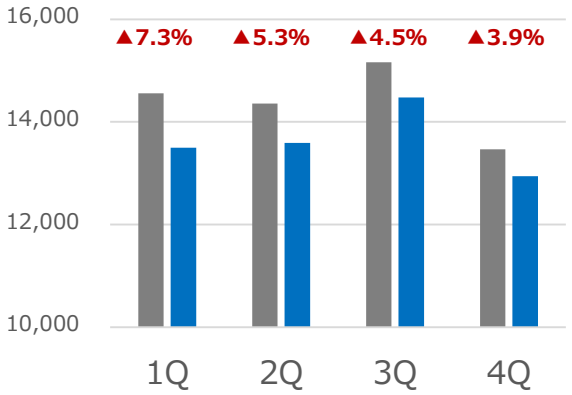
理研ビタミン株式会社

国内食品事業：家庭用は伸長も、業務用・加工食品用原料等をカバーできず

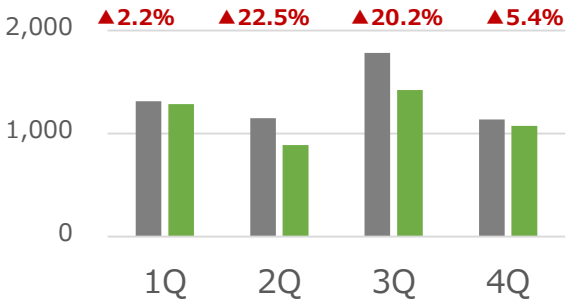
国内食品事業

単位：百万円	20/3期	21/3期
売上高	57,546	54,514

● 売上高



● 営業利益



（家庭用食品）

	20/3期	21/3期
売上高	13,371	14,009

売上高前年比

1Q　+13.6%
2Q　+4.9%
3Q　+1.3%
4Q　▲1.2%

（業務用食品）

	20/3期	21/3期
売上高	21,020	18,587

売上高前年比

1Q　▲20.3%
2Q　▲11.7%
3Q　▲6.7%
4Q　▲7.3%

（加工食品用原料等）

	20/3期	21/3期
売上高	23,154	21,916

売上高前年比

1Q　▲7.9%
2Q　▲5.1%
3Q　▲5.7%
4Q　▲2.4%

家庭用
- ■ 巣ごもり需要で特に1Qは販売が好調。2Q以降も内食の定着で安定的に推移
- ■ 健康意識の高まりからわかめ製品の販売が好調。ドレッシングも売上伸長

業務用
- ■ 1Qに大きく落ち込んだ後、給食再開や外出機会増加に伴い徐々に回復するも、再度の緊急事態宣言で4Qは苦戦
- ■ 在宅勤務の定着などを背景に、CVS向けの販売も年間を通して低調

加工食品用原料等
- ■ 土産菓子、ソフトクリーム等の行楽需要が大幅減。缶コーヒー等の嗜好飲料向けやガム、タブレット菓子等の携帯用菓子向けも苦戦が続く
- ■ 健康意識の高まりからビタミン類の販売は好調

セグメント別ポイント（2/2）

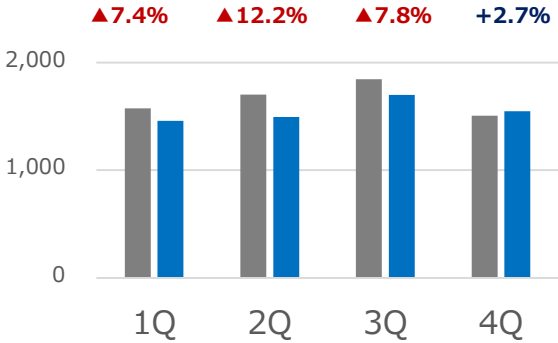
理研ビタミン株式会社

国内化成品その他事業：2Qに大幅減益

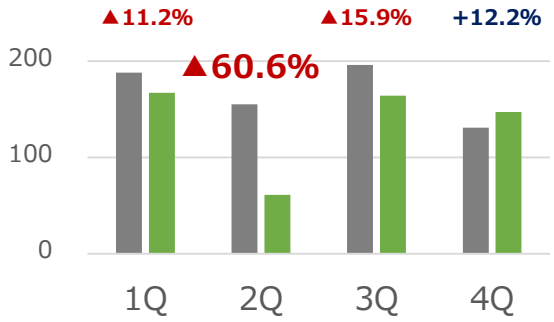
国内化成品その他事業

単位：百万円	20/3期	21/3期
売上高	6,631	6,204

● 売上高



● 営業利益



- 米中貿易摩擦にコロナ影響が加わり幅広い分野で需要減、利益減少は２Ｑがピーク
- 8月以降自動車産業向けの需要は徐々に回復基調

海外事業：改良剤の工場停止が影響

（海外改良剤）

	20/3期	21/3期
売上高	15,521	14,631

売上高前年比

1Q ▲15.7%
2Q ▲8.7%
3Q ▲3.4%
4Q +4.3%

（青島福生食品）

	20/3期	21/3期
売上高	4,852	3,919

売上高前年比

1Q ▲21.4%
2Q ▲23.0%
3Q +52.3%
4Q ▲61.5%

海外改良剤

- 1Qはコロナによりマレーシア工場で稼働制限
- 各国でコロナによる需要減少は見られるが中国の食品改良剤需要は堅調
- 原料価格や海上運賃の高騰が利益面に影響も営業黒字を確保

青島福生食品

- コロナ関連の風評被害から棚卸資産評価損2,845百万円を計上し、大幅な営業赤字
- 3Qは在庫の処分販売で一時的に売上増

海外改良剤事業　エリア別概況

理研ビタミン株式会社

ヨーロッパ

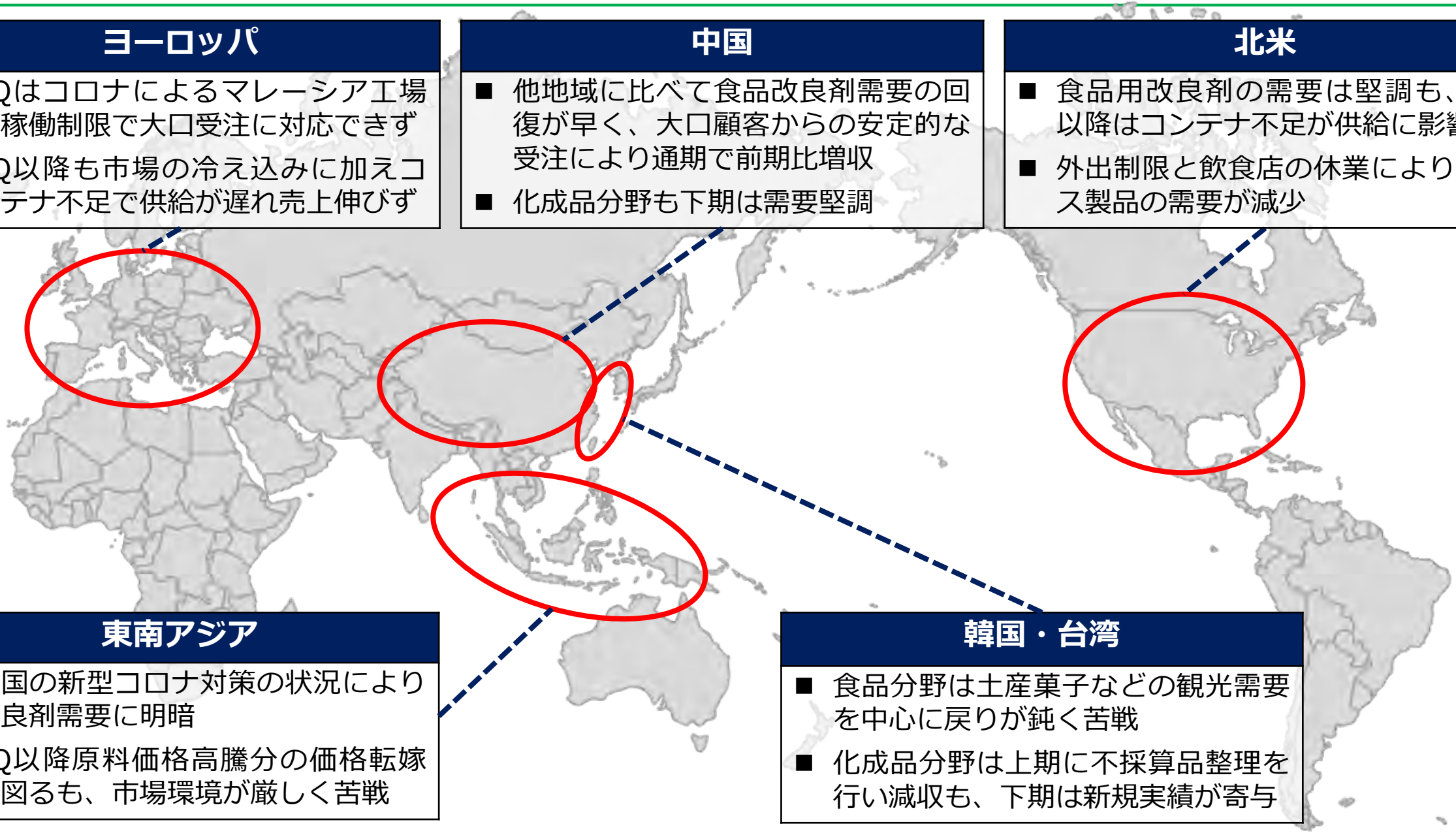
- 1Qはコロナによるマレーシア工場の稼働制限で大口受注に対応できず
- 3Q以降も市場の冷え込みに加えコンテナ不足で供給が遅れ売上伸びず

中国

- 他地域に比べて食品改良剤需要の回復が早く、大口顧客からの安定的な受注により通期で前期比増収
- 化成品分野も下期は需要堅調

北米

- 食品用改良剤の需要は堅調も、3Q以降はコンテナ不足が供給に影響
- 外出制限と飲食店の休業によりエキス製品の需要が減少



東南アジア

- 各国の新型コロナ対策の状況により改良剤需要に明暗
- 3Q以降原料価格高騰分の価格転嫁を図るも、市場環境が厳しく苦戦

韓国・台湾

- 食品分野は土産菓子などの観光需要を中心に戻りが鈍く苦戦
- 化成品分野は上期に不採算品整理を行い減収も、下期は新規実績が寄与

連結貸借対照表・連結キャッシュフロー計算書

理研ビタミン株式会社

連結貸借対照表

- **自己資本比率は43.3%（前期末比▲2.2pt）**
- **長期借入金から短期借入金への振替120億円**
- **仮受金は19億円増の142億円**

	2020年3月期 期末	2021年3月期 期末
流動資産	52,515	53,326
固定資産	49,337	53,209
資産合計	101,853	106,535
有利子負債	24,290	25,502
負債合計	55,064	59,861
純資産合計	46,789	46,674

連結ＣＦ計算書

- **税引前損失7百万円も、キャッシュを伴わない費用の戻し入れなどで営業ＣＦは増加**
- **フリーキャッシュフローは53億円のプラス**

	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期
営業ＣＦ	5,850	7,625
投資ＣＦ	▲4,282	▲2,288
ＦＣＦ	1,568	5,337
財務ＣＦ	▲3,051	▲180
現金及び現金同等物の期末残高	13,604	18,655

1. 青島福生食品に関する経緯と改善措置の概要

2. 2021年3月期業績

3. 2022年3月期業績予想

- 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用いたします。
- 業績予想の売上高前期比増減額・増減率は、当該基準の影響額を除外して表示しています。
- 上記会計基準の適用による営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益への影響はありません。

2022年3月期 通期業績予想

理研ビタミン株式会社

売上高は減少も利益回復、当期純利益は黒字

- 国内は新型コロナウイルスの影響から一定程度回復するが、なお長期化する前提
- 海外は改良剤が増収、青島福生食品は著しい市況悪化に直面しており下期予想を未定とする
- 販管費や原材料費の増加が減益要因となるが、青島福生食品の前期損失の反動で増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は黒字回復を予想

単位：百万円

	2021年3月期 通期	2022年3月期 通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	77,722	※**75,000**	※※▲1,145	※※▲1.5%
営業利益	1,367	**4,000**	+2,632	+192.6%
経常利益	1,652	**4,000**	+2,347	+142.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲1,618	**2,800**	+4,418	-
ROE	▲3.5%	**6.0%**		

※「収益認識に関する会計基準」適用の影響額▲1,577

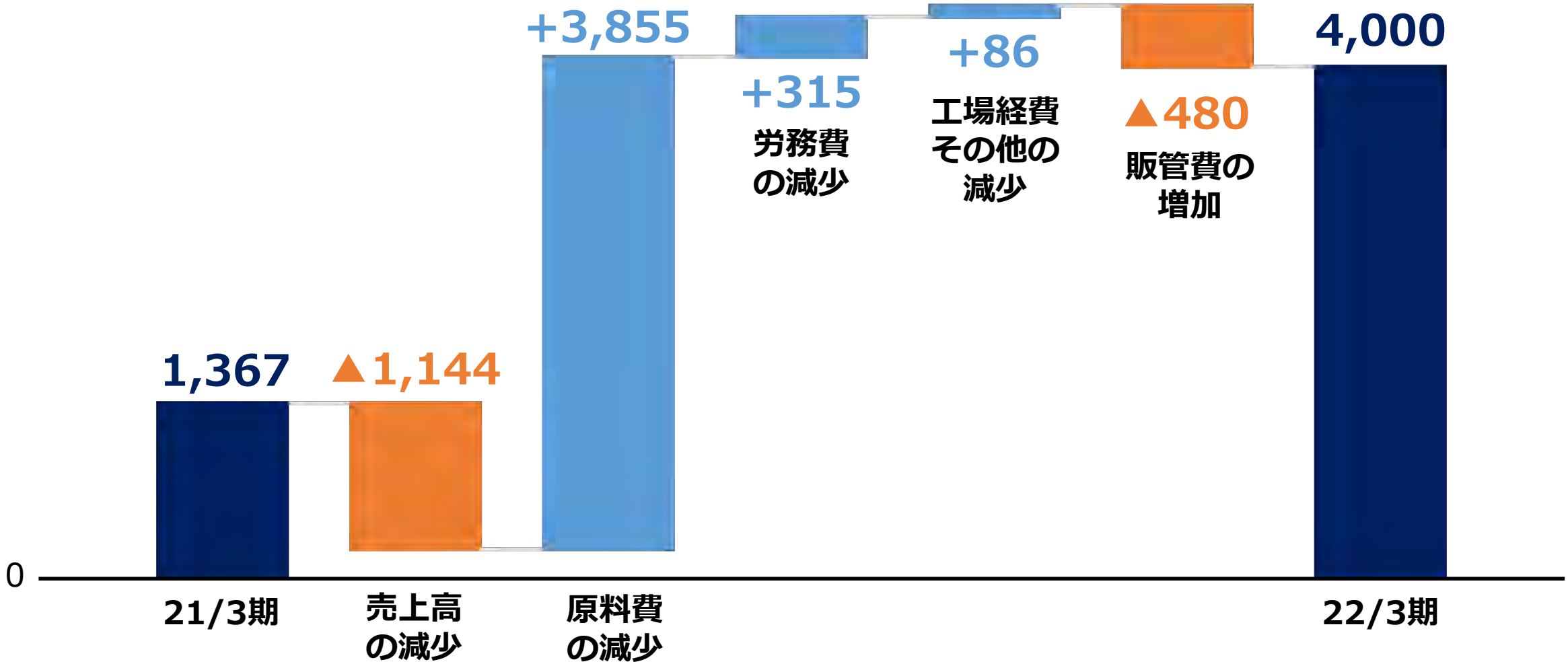
※※「収益認識に関する会計基準」適用の影響額を除外して表示しています

営業利益の増減要因

「収益認識に関する会計基準」適用の影響額を除外して表示しています

理研ビタミン株式会社

- 原料費は前期棚卸資産評価減の反動
- 移動を伴う活動が徐々に再開し、販管費は増加すると見込む



2022年3月期セグメント予想

理研ビタミン株式会社

国内は減収減益、海外は17/3期以来、5期ぶりの黒字予想

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年3月期	2022年3月期	前期比※		2021年3月期	2022年3月期	前期比	
	通期	通期予想	増減額	増減率	通期	通期予想	増減額	増減率
国内食品事業	54,514	**53,300**	▲26	▲0.0%	4,677	**3,500**	▲1,177	▲25.2%
家庭用食品	14,009	**12,800**	▲457	▲3.3%				
業務用食品	18,587	**18,400**	+174	+0.9%				
加工食品用原料等	21,916	**22,100**	+256	+1.2%				
国内化成品その他事業	6,204	**6,200**	+345	+5.6%	541	**450**	▲91	▲16.9%
海外事業	18,550	**16,700**	▲1,811	▲9.8%	▲3,303	**450**	+3,753	-
海外改良剤	14,631	**16,250**	+1,657	+11.3%	495	**800**	+304	+61.3%
青島福生食品※※	3,919	**450**	▲3,469	▲88.5%	▲3,799	**▲350**	+3,449	-

※売上高の前期比増減額・増減率は、「収益認識に関する会計基準」適用の影響額を除外して表示しています
※※青島福生食品は著しい市況悪化に直面していることから、下期予想を未定としています

国内食品事業の取組みと今後の見通し

理研ビタミン株式会社

家庭用はコロナ禍を背景とした健康需要の取り込みに注力
業務用・加工食品用は需要拡大が見込まれる分野への提案強化を図る

家庭用食品	業務用食品	加工食品用原料等
売上高：12,800百万円 前期比：▲3.3%	売上高：18,400百万円 前期比：+0.9%	売上高：22,100百万円 前期比：+1.2%
健康をテーマにしたＨＰやマンガとのコラボ企画で幅広い層にPR	老健施設や学校給食での減塩需要に対応し、外食需要の減少をカバー	市場変化を予測・分析し、ソリューション提案の幅を広げる

家庭用
- ノンオイルドレッシングを使ったレシピと自宅でできる簡単トレーニングを紹介するサイト「リケンのたべトレ」を開設し、コロナ太り解消を応援
- 発売40周年を迎えるわかめスープは、漫画とのコラボで若年層にもアピール

業務用
- 老健施設に加え、今春より基準改訂で学校給食でも減塩要望が強まる。減塩処方の商品提案でシェア拡大へ
- 中食市場（テイクアウト・冷食等）に向けて調味料、海藻、改良剤の売上拡大を図る

加工食品用原料等
- 酸化防止、工程改善など、食品ロスの低減につながる提案を強化
- 需要が拡大傾向にある免疫強化素材（ビタミンD3等）の提案と供給体制強化を推進

国内化成品その他事業、海外事業の取組み

理研ビタミン株式会社

国内化成品は植物由来の強みを活かした提案と生産能力増強で売上拡大
海外改良剤は重点エリアを中心に収益性を重視した販売活動を進める

国内化成品その他事業

売上高：6,200百万円
前期比：+5.6%

環境に配慮した提案推進と設備投資を実施

- 環境意識の高まりに合わせ、樹脂製品のバイオマス度を向上させる植物由来可塑剤の提案を推進
- マスターバッチの生産能力増強のため設備投資を実施
  重点的な拡販で売上拡大を図る

バイオマス
植物由来を表す
「バイオマスマーク」

マスターバッチ

樹脂に改良剤を効率的に配合するため、ペレット状に加工したもの

海外事業

売上高：16,700百万円
前期比：▲9.8%

【海外改良剤】
売上高：16,250百万円
前期比：+11.3%

高付加価値品の拡販等による収益改善でコスト増に対応

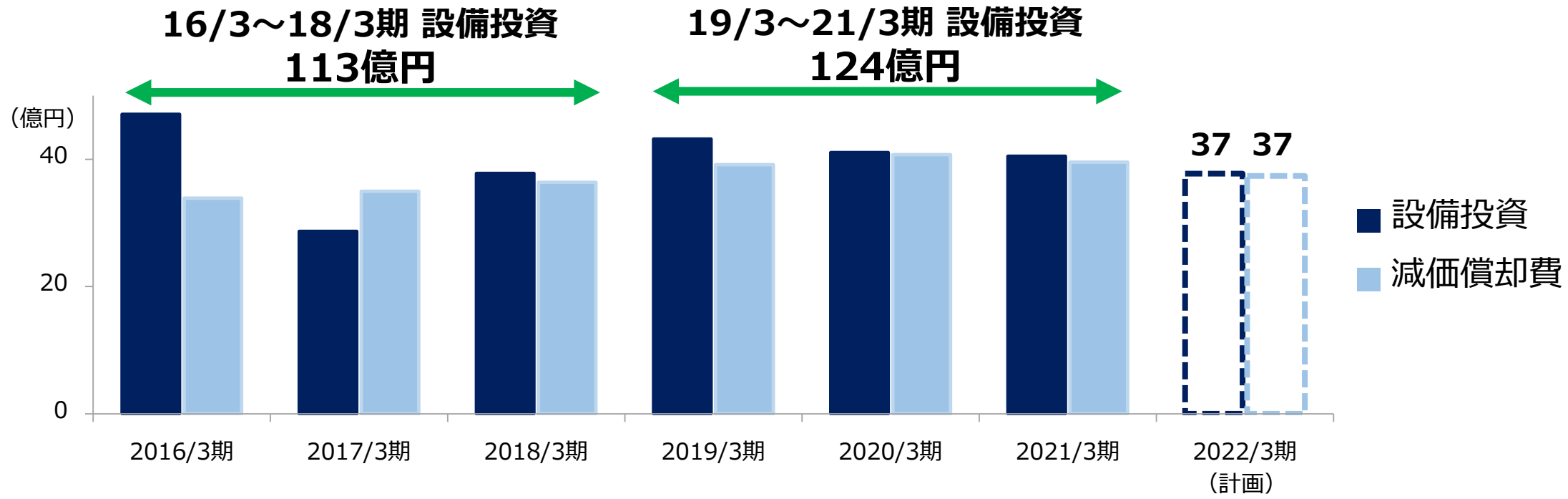
- 新型コロナによる販売活動の制限や海上運賃、パーム原油価格の高騰による利益圧迫は当面続くと予想
- コスト増加分の価格交渉と、重点エリアである中国・東南アジア地域を中心に高付加価値品の拡販に注力

青島福生食品は業務改善の取り組みを継続する

設備投資 および 減価償却費

理研ビタミン株式会社

●設備投資額・減価償却費の推移



2022年3月期の主な設備投資計画

会社名	金額（億円）	主な設備投資計画
理研ビタミン	21	東京工場 医薬ＭＣ棟建設
理研食品	5	陸上養殖施設「陸前高田ベース」建設
健正堂	3	マスターバッチ生産能力増強（化成品その他事業）
リケビタ・マレーシア	3	生産制御システム更新

トピックス①海藻の生産に進出

理研ビタミン株式会社

グループ初となる海藻の陸上養殖施設「陸前高田ベース」を10月開設

事業内容

生産量が激減している「スジアオノリ※」を養殖し
まずは年間5t（乾燥品）の生産を目指す

※スジアオノリ：青のりの中でも香りの強さと色の良さで高級品とされる海藻

- 2026年3月期には10tを目標
- 高品質な青のり原料の安定供給により、市場の成長に貢献
- スジアオノリ以外にも複数種を検討中

当社グループの海藻に対する取り組み

わかめの安定供給に向けた研究

わかめの優良種苗を開発、生産
主に三陸・北海道の生産者に供給し、生産性の向上に寄与

わかめの安全・安心の研究

トレーサビリティと産地判別技術を用いた
独自の産地判別検査を実施

わかめにとどまらない海藻の研究

研究に基づく陸上養殖の事業化
もずくの種苗研究　など

国連主導で設立された国際海藻連合（Safe Seaweed Coalition）の日本代表委員が当社グループから選出

ＳＤＧｓの観点から今後世界的に進む海藻の研究と連携

出典： Seaweed Manifesto
https://ungc-communications-assets.s3.amazonaws.com/docs/publications/The-Seaweed-Manifesto.pdf

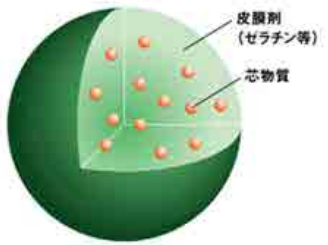
理研ビタミン株式会社

東京工場に医薬ＭＣ棟を建設中、医薬マイクロカプセルの需要増に対応

<建設中の建物>

- 2020年7月に着工、竣工は2021年12月を予定
- 医薬向けのため、完成後にバリデーション※を行う
- 2022年4月から既存設備からの製造移管を進め、移管完了は2024年3月期下期の見込み
- 移管完了後の生産能力は現行設備の1.4倍

当社のマイクロカプセル化技術



■ ビタミンＤ３のような不安定な物質をゼラチン等の被膜剤中に封じ込め、安定性を改善

■ 医薬品で扱いにくいとされる難溶性薬物を被膜剤に均一分散させることでハンドリング性、吸収性を改善

※ バリデーション：医薬品・医療機器を製造する工程や方法が正しいかどうかを検証するための一連の業務。医薬品の製造業者は製造管理と品質管理等を適切に行うために、バリデーションを行うことが義務付けられている

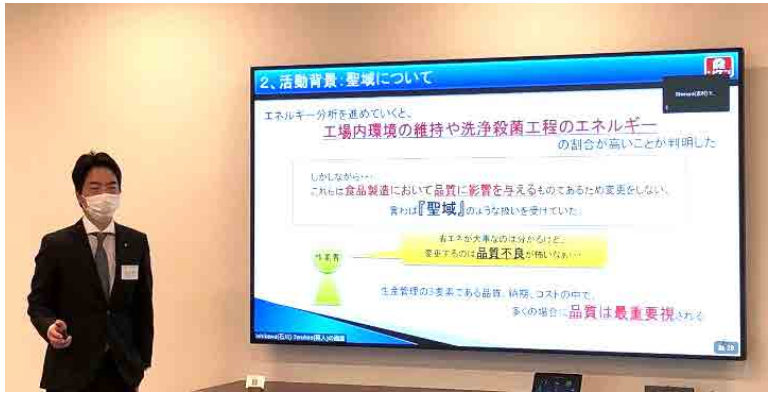
2020年度省エネ大賞 経済産業大臣賞を受賞

【受賞テーマ】
「食品工場における品質と省エネの両立に向けた聖域なき省エネ改革」

- 2020年度省エネ大賞 省エネ事例部門（ＣＧＯ・企業等分野）において当社草加工場の取り組み※が最高賞にあたる「経済産業大臣賞」を受賞
- 省エネが進みづらかった品質に直結するエネルギーにも踏み込み、5年間で原油換算エネルギー原単位を25%以上削減
- 食品業界はもとより、他業界にも広く展開できると高く評価

理研ビタミン　草加工場

成功した施策・アイディアは他工場にも共有
全社的に省エネ活動を推進



※具体的な省エネ事例は当社ホームページでご紹介しています
https://www.rikenvitamin.jp/news/2020/energy_conservation.html

植物由来成分を主体とした農薬の開発

- 化成品用改良剤（天然由来の脂肪酸エステル）を主成分とする薬剤にスギの雄花の着花を抑制する効果があることを確認
- 理化学研究所有本特別研究室との共同研究。理化学研究所と連携し、農薬としての登録を目指す

散布試験の結果

散布区の様子
雄花の着花が見られない

対照区の様子
密度の高い着花が見られる

- 実用上の薬害もなく、周辺の植生への悪影響も認められなかった

林野庁 花粉発生源対策 ”３本の斧”

第一の斧「刈って利用します」
スギ人工林の伐採を進め、資源として利用

第二の斧「植え替えます」
花粉の少ない苗木等への植替え、広葉樹の導入

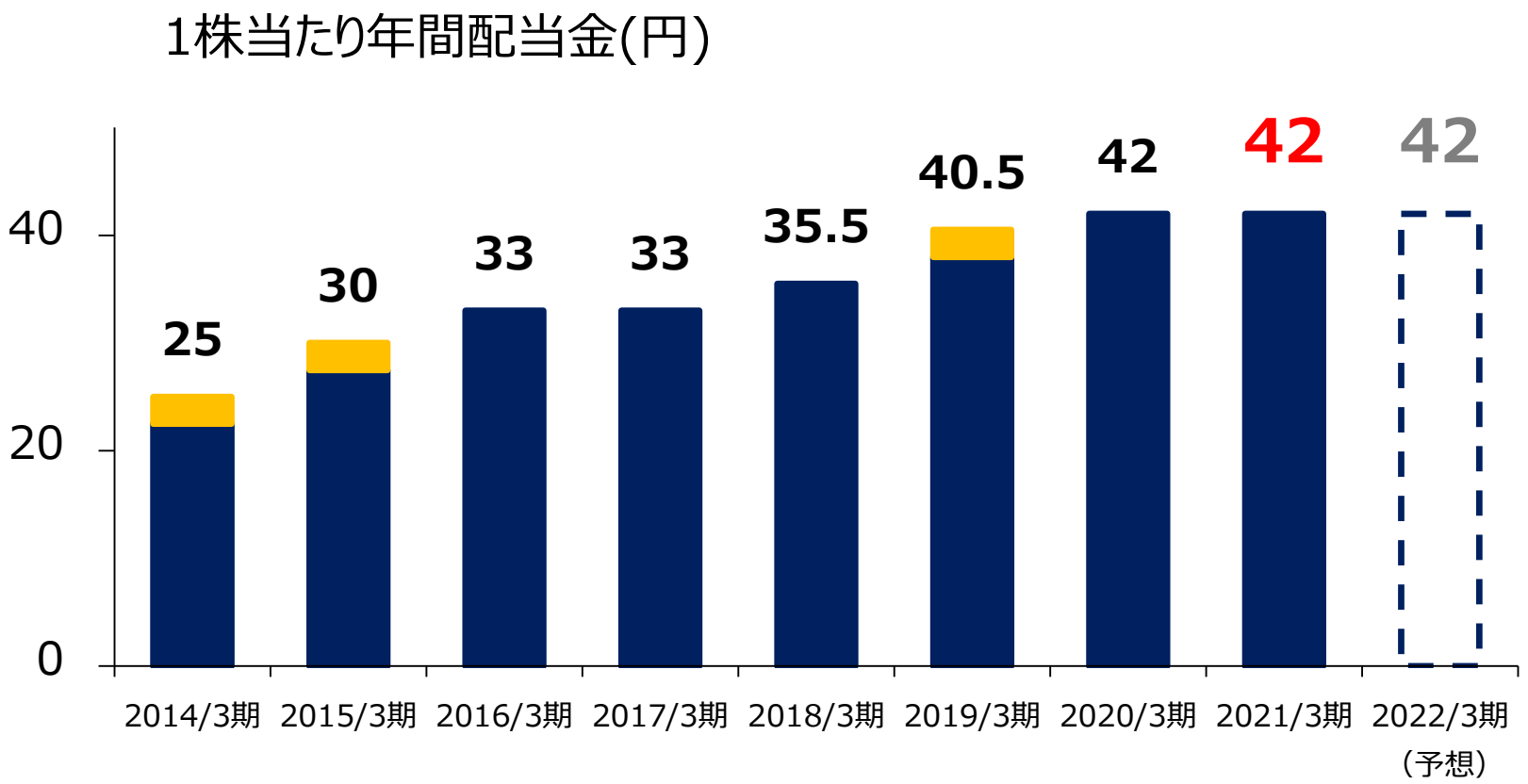
第三の斧「出させません」
スギ花粉の発生を抑える技術の実用化を図る

※林野庁HPより

第三の斧の一端を担うべく取り組みを継続

配当予想

「長期的な視野に立った安定的な配当の実施」が基本方針
市場環境には不透明感があるが、青島福生食品を除く当社グループの収益力は安定的なレベルを維持していることから、前期と同水準の配当を継続する予定



ご注意

当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。左記グラフ中の1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予測したものです。
実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる
場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先
経営企画部　広報・ＩＲ室　井上・清水
ＴＥＬ：03-5362-1315

補足資料

連結業績推移

理研ビタミン株式会社

（百万円）	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期予想
売上高	75,398	77,568	85,419	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	75,000
前期比増減率	▲ 3.2%	2.9%	10.1%	0.2%	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.3%	※▲1.5%
営業利益	2,567	3,600	5,027	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	4,000
前期比増減率	▲ 54.1%	40.3%	39.6%	▲ 8.3%	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 74.2%	192.6%
売上高営業利益率	3.4%	4.6%	5.9%	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	5.3%
経常利益	2,836	3,741	5,294	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	4,000
売上高経常利益率	3.8%	4.8%	6.2%	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	5.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,415	2,406	3,590	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	2,800
売上高当期純利益率	1.9%	3.1%	4.2%	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	–	–	3.7%
総資産額	86,524	94,257	102,345	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	
純資産額	56,363	60,728	67,253	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	
自己資本比率	64.8%	63.9%	65.1%	66.1%	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,537	3,064	6,908	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,625	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,376	▲5,697	▲3,578	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,288	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲179	▲1,334	▲861	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	
ROE	2.6%	4.1%	5.7%	5.3%	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 3.5%	6.0%

※2022年3月期予想売上高の前期比増減率は、「収益認識に関する会計基準」適用の影響額を除外して表示しています

セグメント別四半期業績推移

理研ビタミン株式会社

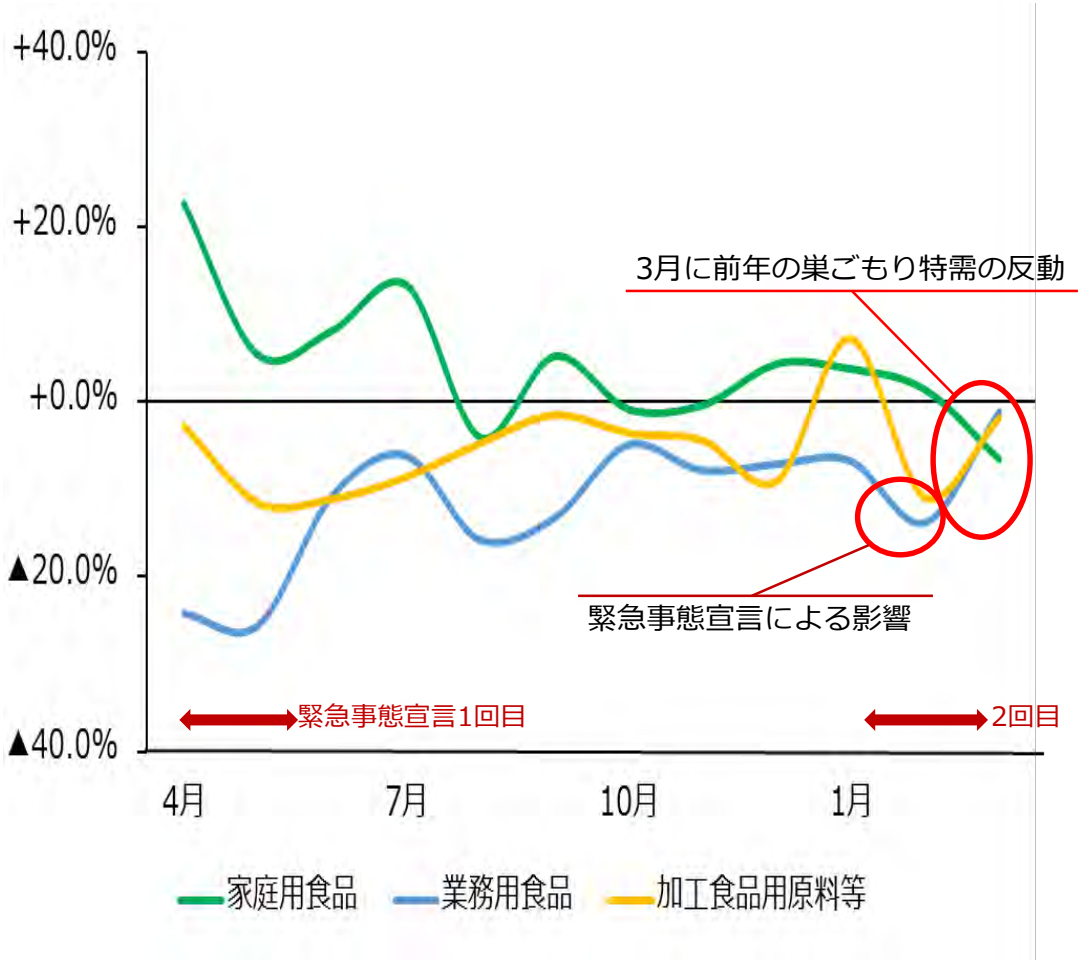
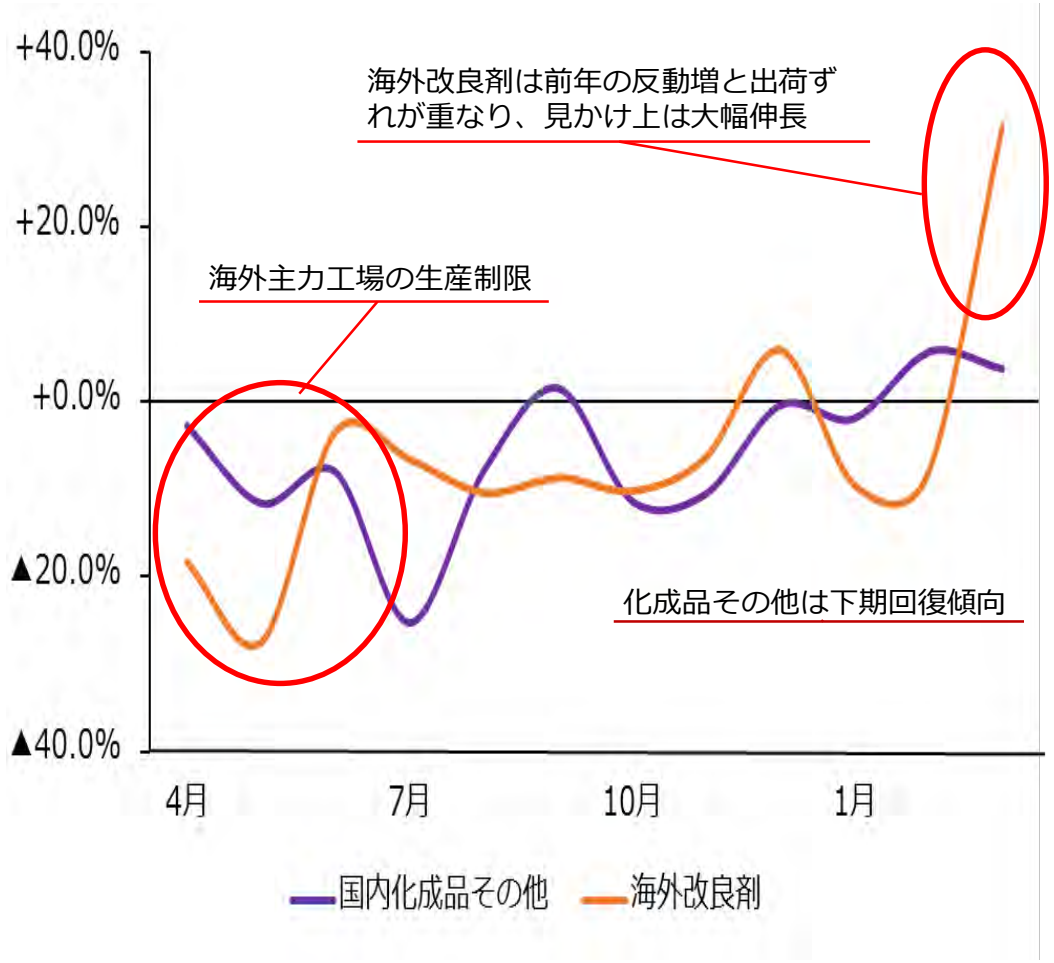
	（百万円）	2019年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	2020年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	2021年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業計	14,860	14,605	15,875	13,254	14,560	14,356	15,164	13,464	13,498	13,592	14,480	12,942
	家庭用食品	3,878	3,542	3,550	2,967	3,514	3,204	3,379	3,273	3,992	3,361	3,422	3,233
	業務用食品	5,463	5,418	5,842	5,008	5,393	5,332	5,455	4,839	4,299	4,708	5,091	4,488
	加工食品用原料等	5,518	5,645	6,482	5,278	5,653	5,819	6,329	5,351	5,206	5,522	5,966	5,221
	国内化成品その他事業	1,600	1,719	1,785	1,581	1,576	1,702	1,844	1,507	1,460	1,495	1,700	1,547
	海外事業計	6,013	5,672	6,234	7,329	4,717	5,363	5,014	5,278	3,914	4,709	5,384	4,541
	海外改良剤	3,590	3,807	4,067	4,075	3,616	4,050	4,044	3,810	3,049	3,698	3,907	3,975
	青島福生食品	2,422	1,865	2,166	3,253	1,101	1,312	970	1,467	864	1,011	1,477	565
	調整額（セグメント間消去）	▲ 366	▲ 303	▲ 460	▲ 377	▲ 361	▲ 384	▲ 452	▲ 379	▲ 416	▲ 294	▲ 421	▲ 415
	連結合計	22,108	21,693	23,435	21,787	20,493	21,038	21,570	19,871	18,457	19,502	21,145	18,617
営業利益	国内食品事業	1,461	1,413	2,016	883	1,315	1,149	1,784	1,138	1,286	890	1,424	1,076
	国内化成品その他事業	165	195	207	163	188	155	195	131	167	61	164	147
	海外事業	▲ 177	▲ 578	▲ 253	▲ 531	▲ 7	437	311	▲ 1,034	▲ 1,881	▲ 525	▲ 324	▲ 572
	調整額（セグメント間消去）	▲ 153	▲ 88	▲ 112	▲ 31	▲ 40	▲ 164	▲ 74	▲ 178	▲ 295	▲ 199	▲ 19	▲ 34
	連結合計	1,295	▲ 770	▲ 1,253	▲ 1,823	1,455	1,576	2,217	57	▲ 722	227	1,245	617

セグメント別前期比増減率の推移

理研ビタミン株式会社

国内は緊急事態宣言、海外は１Ｑ生産制限が大きく影響

国内食品事業（サブセグメント別）



国内化成品その他・海外改良剤事業